nittoKAI

http://www.nittokai.org/

〒107-0052　東京都港区赤坂 3-2-7　サムリンビル 5F
TEL: 03-6441-3120　FAX: 03-6441-3121　info@nittokai.org

NPO 法人 日本トルコ文化交流会

TURKEY JAPAN CULTURAL DIALOG SOCIETY

Enhancing Fellowship from Past to Future

nittoKAI

トルコの世界遺産 カッパドキア

Greeting

日本とトルコの友好関係は、1887 年の小松宮彰仁親王夫妻のイスタンブール訪問からはじまりました。その後、エルトゥールル号遭難事件、イラン・イラク戦争時のトルコ航空による日本人救出、1999 年のトルコ大地震、2011 年の東日本大震災など、歴史の中で相互に助け合う関係を築いてきました。

近年では、両国の友好関係が歴史や文化交流だけでなく、経済面などでのパートナーシップにまで広がっています。トルコ経済の急成長に伴って、両国間で様々なプロジェクトが行われ、日本とトルコの距離はさらに縮まりました。一例を挙げれば、ボスポラス海峡を結ぶマルマライ・トンネルの建設や 4 世代目の通信衛星開発など、世界に誇る日本の技術力によってトルコで実現できた事例は数多くあります。

その間、日本トルコ文化交流会（nittoKAI）としては、両国関係のさらなる発展を促進するため、数多くの講演会、展覧会、経済ビジネスフォーラム、トルコツアーやボランティア活動など、草の根的な活動を積極的に行って参りました。

今後は、日本とトルコの二国間で培われた温かい絆づくりの対象をさらに広げ、多様なバックグラウンドを持つ人々との対話に力を入れ、友好の精神を世界に発信することで平和実現に寄与していきたい所存です。

当会の活動へ、皆様からの変わらぬご支援、ご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

NPO法人 日本トルコ文化交流会
理事長
ウグル　ユジェル 工学博士

Events & Cultural Activities

Enhancing Fellowship

Seminars

From Past to Future

Trips

Charities

Mission & Vision

特定非営利活動法人 日本トルコ文化交流会（nittoKAI）は、日本において様々なバックグラウンドや価値観を持つ人達が交流し、互いを認め合い、尊重し合えるような社会空間を作り出したいという理想のもとに、2006 年に創設されました。
日本とトルコという二国間の関係のみに限定せず、異なる文化、民族・人種 、宗教に属する人々が同じ地球市民として交流・対話ができる場を作ることで、世界平和の促進と実現に貢献することが私達の望みです。

当会では、多岐にわたる活動を行っています。各界の専門家や著名人を招いて開催する講演会では、私達の社会が抱える様々な問題について皆様との情報共有・意見交換を図ります。文化交流活動として開催する展示会や演奏会では、美術や音楽、文学などの芸術を通して、人類に共通する普遍的な価値観に共感し、互いを感性の部分から理解し合えることを期待しています。また、国際協力と相互発展に寄与する有意義なプロジェクトを行う方々に対して、国際的な学会・会議への参加や、専門施設への見学などをアレンジしております。相互扶助の精神は世界平和に何よりも必要な活動の一つです。地震や台風などの災害や戦争・紛争によって傷ついた人々や地域に対し、物資の送付や必要に応じた援助活動を行っております。

私達 nittoKAI は、日本とトルコの関係という一つの入口から歩み出した友情の絆を、皆様のご支援とご協力をいただきながら全世界へと広げて行きたいと願っています。

Contents

1 ····· Greeting（理事長挨拶）
4 ····· Mission & Vision（nittoKAI の理念）
5 ····· Events & Cultural Activities（文化交流）
17 ····· Seminars（講演会）
35 ····· Charities（ボランティア活動）
42 ····· Message（小池百合子氏からのメッセージ）
43 ····· Trips（旅行）
51 ····· About nittoKAI（日本トルコ文化交流会概要）

Events & Cultural Activities
文化交流

トルコの文化を日本人に、日本の文化をトルコ人に紹介するため、
食事会や芸術鑑賞会、アクティビティなどを開催しています。

Events & Cultural Activities

トルコ伝統音楽舞踊グループ「istanbulin」による、
民俗舞踊の様子

フレンドシップディナー

明治記念館にて「日本トルコフレンドシップディナー」を開催いたしました。日本の国会議員8名、在東京トルコ大使をはじめ、そのほか各界から約 200 名の方々にご参加いただきました。

会場では、この日のために来日したトルコ伝統音楽舞踊グループ「istanbulin」による、トルコ各地方の民俗舞踊や伝統音楽の演奏が行われました。場所を移したディナー会では、トルコ料理など様々なお料理とご歓談を楽しんでいただきました。

ラマダーンの食事会

トルコではラマダーンの時期、家族や友人など親しい人を招いて断食明けの食事をとる伝統があります。当会ではこの時期に大切な友人の方たちをお招きして、「ラマダーンの食事会」を行っています。皆様と楽しい時間を共に過ごし、互いの文化を理解し合うきっかけとなっています。

Events & Cultural Activities

第 1 回中高生のための作文・絵画コンテスト 2013 年
受賞作品

中高生のための
作文・絵画コンテスト

2013 年、日本国外務省、トルコ大使館、トルコ航空の後援を受け、中・高校生を対象とした「第 1 回 作文・絵画コンテスト」を開催いたしました。

専門家の方々を審査員に迎え、厳正なる審査を行った結果、全国から集まった 1,550 以上の応募作品の中から、作文部門・絵画部門合わせて 12 の入賞作品および 13 の審査員特別賞が選ばれました。受賞者にはトルコ旅行やパソコンなどの賞品が授与されました。

Events & Cultural Activities

スーフィー公演

コンヤ日本文化センターとともに「スーフィーの旋回舞踊公演」を開催し、会場となった東洋大学の大ホールは約 700 名のお客様で満席となりました。公演の前に、東洋大学文学部哲学科教授 永井晋氏による「スーフィズムとは何か ～イブン・アラビーを中心として～」と題した講演を行い、ご来場のお客様はスーフィーについての基礎知識を学んでから観賞されました。

トルコ大使もお見えになり、スーフィー（メヴレビー教団）の創始者ルーミーの有名な教えをみなさんにご紹介されました。

公演は、生声によるアザーン（礼拝への呼びかけ）の披露からはじまり、バーラマやネイなどの伝統楽器によるスーフィー音楽の演奏が続きました。次に、セマーゼンと呼ばれる舞踊僧が登場し、旋回の儀式を披露。旋回が終わると、コーランの一節が詠みあげられ、祈りを捧げて終了しました。

後援／東洋大学 国際哲学研究センター
協賛／在日トルコ大使館、トルコ航空、トルコ共和国開発省、
トルコ共和国セルチュクル市、Mevlana Development Agency

マーブリングの世界

マーブリングとは、日本では「墨流し」、トルコでは「エブル」と呼ばれ、それぞれの地域で数百年も前から愛され、独自の発展を遂げてきた芸術手法です。

渋谷区のギャラリー大和田にて3日間マーブリング作品の展示会「マーブリングの世界：日本とトルコ」が行われ、石原実氏（日本クラフトデザイン協会理事）と、アフメット・アクギュン氏（トルコ観光省公認芸術家）の作品が紹介されました。

会場にはトルコ大使ご夫妻や日本の政治家の方々もお見えになり、両国に共通する伝統芸術をご堪能いただきました。

Events & Cultural Activities

諸宗教者の平和交流

長崎県宗教者懇話会主催の「諸宗教者の平和交流」および「長崎原爆殉難者慰霊祭」に参加しました。このイベントに参加した東京ジャーミーのイスラーム指導者と当会の担当者は、長崎市長の田上富久氏を表敬訪問したほか、仏教、キリスト教と並び、平和への祈りをささげました。

宗教間の交流

總持寺訪問

曹洞宗大本山總持寺を訪問しました。住職の桂川道雄様より、インドで派生した仏教が中国を経て日本へどのように伝わってきたか、すでに浸透していた信仰との融合と「和」の精神について、また、日本の仏教が世界に向けて発信すべきメッセージについてお話をしていただきました。国民の9割以上がイスラーム教徒のトルコ人にとって、興味深い体験となりました。

独遠寺での座禅体験

独遠寺での座禅会に、当会のスタッフと、関心のある日本やトルコのお客様とともに参加しました。参加者にとって、仏教の世界にふれ、寺で座禅を組むことはとても興味深い体験となりました。

Events & Cultural Activities

トルコの伝統工芸体験

トルコの伝統工芸である、カリグラフィー（トルコ書道）、陶器絵付け、エブル（トルコのマーブリング）、陶芸の専門家がトルコから来日し、日本の皆さんに体験をしていただきました。

アシュレの紹介

トルコには「Tatlı yiyelim, tatlı konuşalım（甘いものを食べて、甘い話をしましょう）」という言葉があります。毎年アシュレの時期に、日本のみなさんと甘いアシュレを食べながら仲良くする機会を作っています。

「アシュレ」とは、フルーツや豆類がたっぷり入ったトルコの伝統的なデザートです。方舟で有名な預言者ノアの故事に由来し、「ノアのプディング」とも呼ばれます。洪水の後、方舟が陸（現在のトルコに位置するアララット山）に辿り着いた時、船の食糧庫に残った穀物や乾物を集めてスープを作り、無事を感謝したのがアシュレの起源です。トルコでは今でもこの日にアシュレを作り、隣人に配る習慣があります。

大学に伺い、学生のみなさんに手作りアシュレを食べていただき、アシュレの日やトルコについてご紹介をさせていただきました。

Events & Cultural Activities

富士登山

夏の交流イベントとして、1 泊 2 日で富士登山を行いました。トルコ人だけではなく、様々な国の方々にご参加いただき、好評のため毎年恒例のアクティビティとなりました。

前夜から山小屋に泊まり、早朝から登山を開始して、山頂から眺める日の出は素晴らしい光景です。

ピクニック

トルコでは季節を問わず、家族や友人たちと野外に出かけて食事や遊びを楽しむ習慣があります。私たちはこの楽しみを日本でも皆様とともに味わい、共有したいと考え、四季折々に日本人やトルコ人の仲間同士でピクニックを開催しています。

2011 年 6 月には、東日本大震災で被災された方々への寄付を目的に、「チャリティピクニック」を開催しました。約 50 人もの方にご参加いただき、集まった寄付金 60,368 円を「石巻市災害対策本部」宛に送金することができました。

Seminars

講演会

政治、経済、社会、教育など様々な問題や課題をテーマに、
著名な方々による講演会やセミナーを開催しています。

Seminars

日本の選挙の不思議

テレビや書籍でおなじみの池上彰氏を迎え、「日本の選挙の不思議」と題した講演会を開催しました。日本の選挙制度や行政のしくみ、選挙速報の裏側など、選挙についての様々なことをわかりやすく解説していただきました。

質疑応答の時間では、30 分にわたって丁寧にお答えいただき、トルコ人の参加者からも「何から何までわかりやすかった」、日本人の参加者からも「知りたいけれど今さら聞けないことがクリアになった」など、大変好評をいただきました。

日本とトルコ友情の絆

明治記念館にて衆議院議員の小池ゆり子氏による講演会を開催しました。前半は日本とトルコの友情の歴史について、後半は小池氏の政策についてもお話いただきました。

講演のあとはトルコ料理を囲んで懇親会を行いました。

講演後、トルコ料理を囲んでの懇親会の様子

Seminars

少子化・家族・教育問題
～大震災を乗り越えて～

明治記念館にて参議院議員の猪口邦子氏による講演会を行い、少子化や教育問題についてお話しいただきました。トルコ大使（当時）もご来場くださり、講演のあとは参加者の皆様とともに懇親会を行いました。

日本人の特異性

明治記念館にて作家の曽野綾子氏による講演会を行い、「日本人の特異性」についてお話しいただきました。講演のあとは参加者の皆様とともにトルコ料理を囲み、懇親会を行いました。

講演後、トルコ料理を囲んでの懇親会の様子

Seminars

トルコ東部地震（ワン市）で現地に向かった日本人活動家をお招きして

日本人活動家による講演会を行いました。講演者は「AAR（難民を助ける会）」の近内みゆき氏と、「AMDA（The Assocation of Medical Doctors of Asia）」の大類隼人医師。お二人は 2011 年の 10 月にトルコ東部で起きた地震直後、被災者支援のため日本から駆けつけてくださったアクティビストです。

近内さんは救助活動の最中に自身も余震によって被災し、同僚の宮崎淳さんと共に倒壊したホテルの下敷きになりました。近内さんは瓦礫の下から救出されましたが、宮崎さんは搬送先の病院で亡くなりました。ご冥福をお祈りいたします。

講演では被災地の様子を詳細にお話しいただきました。

講演会後に行われた懇親会では、トルコ料理を楽しみながら、被災時の協力をどのようにすればよいかについて有意義な意見交換が行われました。

海を越えた握手

海上自衛隊海将補の福本出氏による講演会を行い、日本とトルコの友好の歴史のきっかけとなった、軍艦エルトゥールル号の航海について語っていただきました。

120 年前、トルコから派遣された軍艦エルトゥールル号の数奇な航海が、なぜ世界にも稀な国家間の友情をもたらすことになったのか、当時の時代背景やその後の二国間関係などを交えながらお話しいただきました。

Seminars

北アフリカの民衆蜂起と宗教界回帰

チュニジアやエジプトなど北アフリカの国々からはじまった民衆蜂起をテーマに、東京国際大学国際交流研究所長の塩尻和子氏による講演会を行いました。当日は中東に関心のある学生から研究者まで、幅広い方々にご来場いただきました。

塩尻氏は講演の中で、イスラーム社会が持つ民主的な性質を紹介しながら、民主主義はそれぞれの国や地域にふさわしい形があることなどをお話しいただきました。

文明化の中のイスラームと諸宗教間の対話

塩尻和子氏による講演会を行いました。「文明化の中のイスラームと諸宗教間の対話」をテーマに、文明化とはなにか、イスラームとユダヤ教・キリスト教との共通点または相違点はなにかなど、歴史を振り返りながら、諸宗教間の対話や共存体制の重要性をお話しいただきました。

トルコ ビジネスフォーラム

明治記念館にて「トルコ ビジネスフォーラム」を開催し、約 160 名の方にご参加いただきました。ゲストスピーカーとして、駐日トルコ共和国大使セルダル・クルチ閣下、前・在トルコ特命全権大使の田中信明氏、日本貿易振興機構（JETRO）の石原圭明氏、トルコ共和国政府投資促進機関（ISPAT）東京事務所代表の関仁氏らを迎え、トルコの政治・経済、ビジネス環境、最新の市場動向などについて、数多くの資料やデータをもとにお話いただきました。

日本とトルコにおけるビジネスの可能性・成長性に大きな関心を寄せる聴講者の方たちに、有意義な情報を発信できたフォーラムでした。懇親会ではトルコ料理の立食パーティーをお楽しみいただきました。

アラビスト外交官が見た日本の中東外交

アラビア語専門官としての 39 年間の外務省勤務を終えた元リビア大使の塩尻宏氏に、日本外務省の中東外交を運営する組織とその活動について、またご自身の中東での経験に基づいて日本外交の本質と今後の展開をお話しいただきました。

『アラブの春』後の中東イスラム世界の行方は ～エジプト、シリア、トルコを中心に～

ジャーナリストとして中東を専門的に取材し、2010 年から 2012 年にかけて発生した民衆蜂起「アラブの春」の折りには、中東アフリカ総局長としてカイロに滞在された朝日新聞国際報道部長の石合力氏を迎え、現場から見続けた「アラブの春」と、中東の行方についてお話しいただきました。

親日国トルコと日本の連携

歴史的な友好関係がありながら、経済的な結びつきにおいては希薄だった日本とトルコ。しかし昨今では、トルコの急激な経済成長を受け、未だかつてないほどビジネス面での関係を深めつつあります。今後も引き続き、日本とトルコがさらなる友好関係を築きあげるためには何が必要なのでしょうか。笹川平和中東イスラム基金事業室副長の松長昭氏にお話しいただきました。

Seminars

平和の礎は家族にある
～イスラームに学ぶ癒しの知恵～

内藤正典氏を迎え、講演会を行いました。内藤氏は長年、イスラーム世界と西欧諸国との国際関係、特にヨーロッパにおけるムスリム移民の研究を行ってこられたイスラム社会問題の専門家です。この日は内藤氏に家族の大切さについてお話しいただきました。

中東の地図が変わるのか？“アラブの春”は将来の中東に何をもたらすのか

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科長・教授の内藤正典氏を迎え、講演会を開催しました。

内藤氏のシリア留学時代のお話や、中東・欧米諸国の要人とのやりとりなど、生きたエピソードやたとえ話をふんだんに織り交ぜてご解説いただき、中東情勢をより正しく知る機会になりました。

中東民主化には何が必要か？民主化を実現したトルコからの視座

明治記念館にてトルコの社会問題を専門とする、同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科長・教授内藤正典氏による講演会を行いました。テーマは「中東民主化には何が必要か？」。民主化を実現したトルコからの視点でお話しいただきました。

トルコ騒乱は何を意味するのか

2013 年にトルコ全土で勃発したデモについて、内藤正典氏に解説していただきました。

内藤氏はこのデモの広がりを５段階に分けて解説され、日本をはじめ欧米など海外の報道の誤りを指摘されました。そして、小さかった市民の反対運動をこのような全国的な規模に発展させた理由はなにか、それこそが今後の課題だと締めくくられました。当日は 100 名を超える参加者にご来場いただき、問題への注目度の高さがうかがえました。

Seminars

イスラームと民主主義

慶應義塾大学総合政策学部教授の奥田敦氏を迎え、「イスラームと民主主義」と題して講演会を開催しました。西欧資本主義的な価値観や枠組みからではなくイスラーム教徒の目線から、現在起こっていること、今後求められていく方向性などをご説明いただきました。多くの方にご来場いただき、シリア問題への注目の高さがうかがえました。

トルコでの「家族と暴力に関する報告会」

2013 年 10 月にトルコで開催された「家族と暴力に関する報告会」に参加された、北海道大学大学院法学研究科教授の町村泰貴氏と、神奈川大学法学部教授井上匡子氏を迎え、日本とトルコ、両国のドメスティックバイオレンスの状況と、トルコでの報告会の様子をお聞きしました。

トルコにおける司法と民主化

トルコの政治がご専門の岩坂将充氏を迎え、講演会を行いました。近年、トルコは民主主義の定着に向けて進展しているように見えます。さまざまな分野における改革がトルコの「民主化」に貢献していますが、重要な鍵を握る司法の役割についてはあまり知られていません。そこで、トルコの「民主化」と司法のあり方に焦点を当て、国際比較の視点を交えながらお話しいただきました。

私たち“地球人”

NPO 法人ガイア・イニシアティブ代表の野中ともよ氏を迎え、「私たち“地球人”」と題する講演会を行いました。野中氏の子ども時代から学生時代、サンヨー時代、そして現在に至るまでの半生、また、いかにして「地球人」「ガイア」という発想が生まれたか、同じ地球に生きる人間として何を大切にしていくのか、などをお話しいただきました。最初から最後まで会場が笑いに包まれる講演会となりました。

Seminars

日本における共生思想の展開について

東洋大学学長の竹村牧男氏を迎え、日本における共生思想の展開についての考察をお話しいただきました。日本人、トルコ人その他さまざまなバックグラウンドを持つ方々にご参加いただき、グローバル化が叫ばれる今日、「共生」というテーマが私たちの大きな命題であることを再確認することができました。講演のあとはみなさんにトルコ料理を堪能していただきました。

日本の家族と女性

上智大学大学院地球環境研究科教授の平尾桂子氏を迎え、日本の過去と現代の家族像についてご教授いただきました。

日本に住むトルコ人向けの講演でしたが、ともにアジアでありながら西欧と対峙してきた日本とトルコ、直面する社会問題や家族が抱える悩みや喜びにも多くの共通点を発見することができた講演会でした。

国際比較調査から見る日本の家族と子ども

慶應義塾大学文学部教授の渡辺秀樹氏を迎え、国際的な視点から見た「日本の家族と子ども」をテーマに、講演会を行いました。

紛争地に選択肢をつくる ～平和構築への取り組み～

NPO 法人日本紛争予防センター（JCCP）理事長、並びに株式会社 JCCPM 取締役を務める瀬谷ルミ子氏を迎え、講演会を開催しました。瀬谷氏が「平和構築」に関心を持ったきっかけや、紛争の原因や現状、予防・解決の糸口について、詳しくお話しいただきました。どの時代、どの地域に生まれても人間には常に悩みや不満があるものですが、それを自分の努力や外部の援助などで解決し、現状を変えられるような「選択肢」があるかないか、が非常に重要であるとの言葉が印象的でした。

アメリカにおけるイスラーム教徒

ワシントン大学国際関係学部准教授のトゥラン・カヤオール氏による講演を開催しました。奴隷売買から今日に至るまでの、アメリカにおけるイスラーム教徒の歴史からはじまり、米国に存在する様々なイスラーム・グループの立場と重要性、米国政府のイスラーム世界に対する姿勢と関係、そして米国で最も急成長するイスラーム・コミュニティの重要性についてお話しいただきました。

シリア、中東の現状と今後

外務省で長年アラビア語の専門員として中東で活躍された黒宮貴義氏を迎え、「シリア、中東の現状と今後」と題して講演会を行いました。

シリアの現状や周辺諸国の状況、中東和平の鍵、日本の外務省の対応などをお話しいただきました。

Seminars

深刻化する自殺問題を考える

日本で深刻化する自殺問題についての講演会を開催しました。ゲストスピーカーに、NPO 法人「自殺対策支援センター ライフリンク」代表で、自殺防止や遺族のケアのために数多くの活動をなさっている清水康之氏、子どもたちの自傷について取材してこられた毎日新聞夕刊編集部の小国綾子氏、そして僧侶の立場から自殺対策に取り組んでおられる臨済宗建長寺派独園寺の藤尾聡允副住職らを迎え、それぞれの視点からお話ししていただきました。

社会問題化する子どものいじめの問題

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター代表理事であり、文部科学省子どもを見守り育てるネットワーク推進会議・子どもの相談体制の構築ワーキンググループ座長でもあられる太田久美氏を迎え、子どものいじめ問題の現状をお話しいただきました。

イスラームと近代化
～トルコの抱えるオスマンの遺産～

東京外国語大学大学院教授で、日本におけるトルコ近代史研究の第一人者である新井政美氏に、現代トルコにおけるイスラームと近代化の関係、その中に顕在するオスマン帝国の遺産についてお話しいただきました。

新井氏は、トルコが近代化あるいはグローバル化のなかで抱えた矛盾を修正する能力は、我々にとって学ぶべき点なのではないか、と講演を結ばれました。

アナトリア文明の特異性

泉ガーデンコンファレンスセンターにて、中近東文化センター アナトリア考古学研究所所長の大村幸弘氏を迎え講演会を開催しました。大村氏はトルコ共和国クルシェヒル県カマン郡チャウルカン村に位置するカマン・カレホユック遺跡調査隊長として発掘調査をされており、講演では大村氏のこれまでの研究をもとに、アナトリア文明の特異性について詳しくお話しいただきました。

19 世紀イスタンブールの演劇空間

オスマントルコ研究の第一人者である永田雄三氏に、19 世紀末～ 20 世紀初頭のイスタンブールの演劇についてお話しいただきました。カラギョズ、オルタオユヌなどの伝統演劇について、画像や動画の資料もたくさんご紹介いただき、これまであまり注目されてこなかった大衆演劇への西欧の影響や、トルコと西欧の文化接触の過程について教えていただきました。

一人芝居公演
「知られざるオスマンからの恩返し」

麻布私塾会塾長の渡邉春吉氏にパフォーマンス公演をお願いしました。

パフォーマンスは音楽と語りを用い、親日国として有名なトルコが日本を知るきっかけとなったエルトゥールル号遭難事故やイラン・イラク戦争の出来事を一人芝居に仕立てたもので、感動の歴史秘話を熱く演じていただきました。

Seminars

ここ10年間におけるトルコ経済上昇の概要
～日本人投資家への可能性とは～

トルコのマルマラ大学からイブラヒム・オズトゥルク教授を迎え、今世界から注目を集めるトルコ経済についてお話しいただきました。オズトゥルク教授はトルコの商工会議所で経済顧問をも務めた専門家で、アジア経済全般に精通しておられることから、トルコ経済の成長の歴史、その理由や今後の展望、投資すべき分野など多岐に渡ってご解説いただきました。会場にはトルコでのビジネス経験のある方や、投資を検討される方など様々な方がご参加くださり、懇親会も大変盛況でした。

世界経済危機の中でのトルコの急成長

明治記念会館にて日本経済新聞社論説副委員長の脇祐三氏の講演会を開催しました。講演のテーマは「世界経済危機の中でのトルコの急成長」ということで、日本経済界はじめ各界から 100 人以上もの方々にご来場いただき、立ち見の方もいらっしゃるほど大盛況でした。急成長を続けるトルコの存在に大きな注目が集まっていることを目の当たりにした講演会でした。

トルコはいかにして政教分離国家になったのか
～トルコにおける政教関係の歴史～

日本大学文理学部准教授の粕谷元氏を迎え、トルコにおける政教関係について、歴史的視点からお話しいただきました。

オスマン時代後期から世俗化の変遷を遡り、トルコにおいていかに「政」と「教」の関係が探られていったのか、その時々の「政」や「教」の定義とは、どこまでの範囲を指すのかなどをわかりやすく解説していただきました。

Charities
ボランティア活動

社会的な救済が必要な人々のため、常に「私たちにできることはなにか」を考え、
ボランティアやチャリティー活動を行っています。

Charities

東日本大震災ボランティア活動

東日本大震災被災者への炊き出し

当会は在日トルコ商工会議所及びレシャット・レストランと共同で、東日本大震災の被災地である宮城県の亘理郡山元町で炊き出しを行い、二日間に渡って 1400 人分の温かいトルコ料理を配りました。

海岸沿いにあった家のほとんどが津波によって流されたか、住むことができない状態まで破損しており、その悲惨な光景に私たちは目を覆わんばかりでした。

「中央公民館」と「山下中学校」、2 カ所の避難所で行った炊き出しの様子は、新聞やテレビなどのメディアからも大きな関心を寄せられました。多くの被災者が、用意したトルコ料理に被災者の皆様からも喜びや感動の声をいただき、駆けつけた私たちも感動に包まれました。トルコ人にはじめて会った、トルコ料理をはじめて食べたという方々も多く、当会及びトルコの人々へ感謝のお言葉をいただきました。

2012 年 3 月 12 日、玄葉外務大臣（当時）主催の東日本大震災後1年に際するレセプションに招待され、関係者 4 名が参加しました。
震災後に当会が被災地で行った活動がこのような形で評価されたことを、大変誇りに思います。
レセプションでは、同じ思いを胸に被災地で支援活動を行った方々との交流を深めることができました。
今後の復興のためにも、できる協力をしていきたいと決意を新たにしました。
（写真中央：トルコ臨時代理大使トゥンチ・アングル、玄葉外務大臣、左右：nittoKAI 関係者）

東日本大震災の支援活動に対していただいた感謝状

Charities

被災地の青少年をトルコに招待

2011 年 7 月 25 日〜8 月 1 日、トルコ航空、TRT（トルコ国営放送）、CALIK HOLDING、トルコ大使館、トルコ国内のホテルなど、数多くの企業・機関の協力により、東日本大震災で被災した青少年計 60 名をトルコに招待しました。

この催しは、被災地の子ども達がトルコを楽しみ、トルコ人の子ども達との交流によって心の傷を癒し、新たな活力を養ってもらうことが目的でした。子ども達はトルコの観光地を周ったほか、学校を訪問したり、サッカーチームと親善試合を行ったりして交流を深めました。

トルコのビジネスマンから、子ども達一人ひとりの名前の入ったトルコ・ナショナルチームのユニフォームが贈られました。

感謝状

NPO法人 日本トルコ文化交流会

会長 YUCEL UGURLU 殿

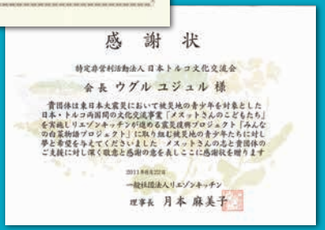
貴団体は東日本大震災における岩手県のサッカースポーツの活動に深い理解と温かいご支援を賜りその発展に大きく寄与されました

その功績に対して深甚なる敬意と感謝の意を表します

平成 23年 8 月 8日

社団法人 岩手県サッカー協会

会長 山本 光男



感謝状

特定非営利活動法人 日本トルコ文化交流会

会長 ウグル ユジュル 様

貴団体は東日本大震災において被災地の青少年を対象とした日本・トルコ両国間の文化交流事業「メスットさんのこどもたち」を実施しリエゾンキッチンが進める震災復興プロジェクト「みんなの台菜物語プロジェクト」に取り組む被災地の青少年たちに対し夢と希望を与えてくださいました メスットさんの志と貴団体のご支援に対し深く敬意と感謝の意を表しここに感謝状を贈ります

2011年8月22日

一般社団法人リエゾンキッチン

理事長 月本 麻美子

東日本大震災で被災した子ども達をトルコに招待したことに対し、岩手県サッカー協会会長、及びリエゾンキッチンの理事長から感謝状をいただきました。

<参加した青少年の地名と学校名>

■宮城県仙台育英高校から、サッカー部の 16 歳以下の子ども達 20 名、監督（1 名）、コーチ（2 名）、ドクター（1 名）の合計 24 名

■ 宮城県明成学園高校から、17、18 歳の高校生（男子 2 名、女子 7 名）、部長先生（1 名）、顧問（1 名）の合計 11 名

■岩手県盛岡市立城西中学から、14 歳以下の子ども達 20 名、団長（岩手サッカー協会会長の山本光男氏）、監督（1 名）、コーチ（2 名）、看護士（2 名）の合計 25 名

Charities

和歌山県台風 12 号による被災者への支援

2011 年に起きた台風 12 号によって甚大な被害を受けた和歌山県に寄付金を送りました。和歌山県は、日本とトルコの友好関係のきっかけとなった軍艦エルトゥールル号の遭難事故があった場所です。事故の際に和歌山の人々がとった慈悲深い行動は、今も忘れられることはありません。

この寄付金は、募金集めのために参加した国際交流フェスティバルにおけるトルコ雑貨やお菓子などの売上金8万 5000 円と、在日トルコ人から当会へ寄せられた寄付金の合計 51 万 5,500 円です。これに対し、後日、仁坂吉伸県知事からお礼の手紙をいただきました。

KIMSE YOK MU

Dear Turkey-Japan Cultural Dialogue Society,

We would like express our sincerest thanks for your generous support to the "Time for Brotherhood" campaign which we launched after the heart rending Van earthquake.

Ünal ÖZTÜRK
Chairman
Kimse Yok Mu Solidarity And Aid Association

トルコ東部大震災に日本から寄付金送付

2011 年 10 月にトルコ東部ワン市にてM7.1 の大地震が発生しました。日本からも多くの義援金や支援部隊が送られましたが、当会でも寄付やチャリティーバザーの売り上げなど計 $44,091.48 をトルコの人道支援団体 NGO KIMSE YOK MU（キムセヨクム）を通して寄付しました。これに対し、同 NGO より感謝状をいただきました。

トルコの人道支援団体 NGO KIMSE YOK MU（キムセヨクム）より拝受した感謝状

シリア難民への支援活動

当会では、内戦が続くシリアの難民に物資を届ける支援活動に協力しました。この活動は、2011 年の東日本大震災の救援物資として岩手県釜石市や陸前高田市、宮崎県気仙沼市などに集まったものの使われずに保管されていた衣類や毛布、靴などの防寒具をトルコのシリア国境のキリスやアダナなどの街で避難生活を送るシリア難民に支給するというものです。

これまでに段ボール約 1,300 個分（2014 年 2 月時点）の支援物資がトルコへ届けられました。この活動において、当会は東北地域の倉庫から成田空港への運送費、空港での関税手続きを担当いたしました。

日本からトルコへの輸送はトルコ航空、トルコ国内での運搬・支給はトルコ最大の人道支援団体 NGO KIMSE YOK MU（キムセヨクム）がそれぞれ無償で行います。東北での物資の梱包・積み込みは、仮設住宅で暮らす東日本大震災の被災者の皆さんやボランティアの方々にご協力いただきました。

Message

日本とトルコの長年に渡る友情は東西で遠く離れた距離をはるかに越え、強く温かいものです。互いの困難を、互いに助け合って乗り越えてきた日ト関係は、まさに人間と人間の信頼の歴史といえましょう。

日本トルコ文化交流会（nittoKAI）は、そんな日本とトルコの関係をさらに強化させる潤滑剤の役目を果たしてこられました。平素からの地道なご活動に心から敬意を表します。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災発生の折には、いち早く被災地での炊き出しに駆けつけました。また、トルコ国内で集められた義援金や救援物資も、nittoKAI を通して被災地に送り届けられました。

発災後間もなくトルコから来日した医師を含む救援チームの活動を全面的にサポートしたのも nittoKAI の皆さんでした。救援チームの滞在中、通訳や移動、その他活動のための諸手続きを全て負担されました。

震災の年の夏には、被災地の子ども達に希望を与えたいと、約 60 名の子ども達をトルコ旅行へ招待しています。

nittoKAI は日常的にも講演会や舞踏団講演など、様々な文化活動を実施されています。最近では、トルコにも流入している隣国シリアからの難民支援にも尽力されています。

今後も、nittoKAI の活動を通じ、親日国トルコファンが増え、経済、文化などあらゆる分野での両国のつながりが強化されることを期待いたします。

衆議院議員
小池 百合子

Trips
旅 行

教育・研究機関、NGO の見学、学会・見本市への参加など、
学術やビジネスを目的としたトルコおよび日本での旅行を企画・サポートしています。

Trips

トルコツアー

作家や落語家、美術関係の皆様とトルコ旅行を開催しました。
トルコ東部の観光のほか、NGO KIMSE YOK MU（キムセヨクム）やメディア作家財団などの訪問も行い、特にトルコ東部の歴史的な街の数々やユーフラテス河の雄大さ、伝統的な習慣や食事には、参加者の皆様からお喜びの声をいただきました。

Trips

小池百合子氏との旅行

衆議院議員の小池百合子氏にトルコをご案内しました。小池氏はトルコ最大の商業 NGO TUSKON（トルコ実業家産業者連合）の会議に出席され、トルコの企業家達と意見交換を行い、エルドアン首相、イスタンブール知事などの要人たちと会談の時間ももたれました。

自殺防止対策ツアー

日本の大きな社会問題の一つである「自殺」についての研究に取り組む専門家を招いてトルコツアーを行いました。

参加いただいたのは、自殺防止対策に積極的な活動を行う NPO 法人ライフリンク代表の清水康之氏、NHK で社会問題を取り上げた番組の制作担当者、早稲田大学で自殺と宗教を研究している大学院生の3名。ツアーでは、PASIAD やジャーナリスト作家財団で「Different Perspectives on Suicide : Turkish and Japanese Examples」と銘打ったワークショップへの参加や、人道支援団体 NGO KIMSE YOK MU（キムセヨクム）への訪問、大学での講演や中学校の訪問などを行い、各場所で両国の自殺問題の状況について報告し合い、解決策を探る旅となりました。その様子に現地の新聞やテレビ局などからも注目が集まり、取材を受け報道されました。

旅行の終盤には、トルコの世界遺産カッパドキアやシャンルウルファなどの観光もお楽しみいただきました。

Trips

合唱団トルコツアー

岡山の合唱団「鷲羽」のメンバー 35 名を率い、トルコへの演奏旅行を開催しました。現地では、トルコの音楽団とともに日本とトルコの音楽をミックスしたユニークかつすばらしい演奏会を行いました。

イスタンブール郊外に位置する歴史的なヘイベリ島にて、“遠くて近い国” 日本とトルコの友好のために、両国の団体がすばらしい歌声と演奏を披露しました。

仏教関係者とめぐるトルコツアー

仏教に携わるグループと共にイスタンブールの占領記念プログラムに参加しました。また、ジャーナリスト作家財団や人道支援団体 NGO KIMSE YOK MU（キムセヨクム）などを訪問し、仏教について理解するとともに両国間のさらなる友情を深めました。

トルコのジャーナリスト作家財団では、両国の文化についての話題で盛り上がり、互いに理解を深め合いました。

Trips

国際女性デーの
シンポジウム参加ツアー

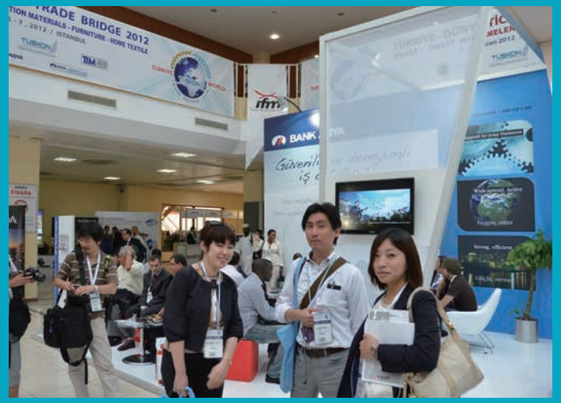
「国際女性デー」を記念してトルコで行われるシンポジウムに、日本の教授2名と作家1名の参加をコーディネートしました。

ツアーご参加の皆様は当会スタッフとともにトルコにわたり、シンポジウムやワークショップへの参加や施設への訪問を行いました。ツアー終盤では、イスタンブール歴史地区やエフェソス遺跡など、数多くの名所をご案内し、ご参加の皆様にトルコ観光を堪能していただきました。

メディアツアー

日本のマスメディアに携わる皆様に躍進する現代のトルコを知っていただこうと、トルコへの「プレス・トリップ」のご招待旅行を企画・催行しました。

ご参加いただいたのは、日本を代表するメディア 11 社の方々。現地では、TUSKON（トルコ実業家産業者連合）主催のコンベンション「トルコと世界 貿易のかけ橋 2012」の見学、トルコメディア関係者とのワークショップ、ビジネスマンとの交流、チャルック財閥会長へのインタビュー、ボイダク・ホールディングス財閥会長兼日本名誉大使 Memduh Boydak 氏や大手企業会長との会食など、様々な企画を通してトルコを知っていただきました。また、イスタンブールやカッパドキア、イズミールの観光などをお楽しみいただきました。



About nittoKAI

特定非営利活動法人 日本トルコ文化交流会（nittoKAI）

所在地	〒107-0052　東京都港区赤坂 3-2-7　サムリンビル 5F
連絡先	TEL. 03-6441-3120　　FAX. 03-6441-3121 平日 10：00 ～ 17：00　土曜・日曜・祝日休み info@nittokai.org
理事長	ウグル ユジェル
ホームページ	http://www.nittokai.org/
Twitter	@nittokai
Facebook	http://www.facebook.com/nittokai.toruko

nittoKAI学生クラブ

「nittoKAI 学生クラブ」は日本・トルコの学生間交流や相互理解を目的に、日本トルコ文化交流会の支部として活動しています。内容はカジュアルな講演会や食事会、トルコ旅行など多岐に渡り、とくに旅行においては一般的なツアーとは異なり、トルコを肌で感じられるスタディ・ツアーを行っています。また、トルコの学生や団体が日本に関する情報を得る窓口としての役割も果し、両国の架け橋となることで、日本人とトルコ人の友情を深めることに貢献しています。

nittoKAIのロゴマークについて

ロゴマークは日本とトルコの協力関係を表しています。日の丸を表す赤い丸の上に、トルコの国花であるチューリップを組み合わせました。日本という国において、日本人のホスピタリティに支えられて暮らしながら、トルコからチューリップのように良いものを提供することで、お互いの良い点を分かち合おうという意味が込められています。

nittoKAI